民報 あばしり
NO.1310
3月28日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四三一－四四五八
FAX 四三一－四四五七

給食調理の集約化ストップ

市民の声 届いた！

民意を取り入れる 請願

市民間委託の中止を求める **署名 2278 名**

ニコニコアバシリゴハンさんの広告（今年２月）

学校給食についてあらためて考えてみませんか

市内全域に配布、アンケートでは

９割が 民間委託に反対

日本共産党のアンケート（昨年 12 月）**市内 16000 件配布**、給食回答 **213 件**

７割が 今のままが良い

令和３年度第１回網走市議会は、学校給食調理場の集約化予算を削除した修正案が可決されました。

昨年１月に提案され、市民の反対の声が高まる中、昨年度は取り下げた案件です。

市教育委員会は見直しを求める声には耳を傾けず、昨年の計画をほぼ変更せずに、説明会で市民の声はきいたとして、予算案を出してきました。

市民の行動が力に

この間、市民団体からの請願、署名、広告などの取り組みが行われたことが、改修費削除とした力となったと思います。

子ども達が減っていく中、学校給食をあらためて考え直す時が来ています。市民皆さんの声をお寄せください。今後ともよろしくお願いします。

予算等審査特別委員会 6人の委員が給食を質問

（川原田、村椿、金兵、平賀、松浦、栗田）

網走市議会は、予算等審査特別委員会を設置し、令和３年度予算案の審査を行いました。16日の教育予算の審査では、６人の委員が給食調理について質問をしました。

・集約化は民間委託を前提か？

↓民間委託を前提。民間委託の検討は、これから行う。

・業者の選定は？　↓委託先は、市が定める仕様に基づき、学校給食調理に実績のある業者からのプロポーザル方式で選定。

・調理員の給料は？　↓給食調理員の給料は、できるだけ下がらないようにする。

・指示は誰がするのか？　↓委託先の管理者が指示する

・委託先には、直接市が指示を出すことはできないことから、異物の混入や調理方法の変更など、緊急時の対応に時間がかかり、調理に支障が出る可能性がある。↓指示書で行う。

納得のいく説明されず

様々な観点から質問がありましたが、どれも納得のいく説明とはなりませんでした。

給食調理場改修費を削除した修正案を採択

18日の取りまとめでは、川原田委員から、給食調理場の改修費１億１７５０万円を削除した修正案が提案されました。

理由は、議論を重ねたが納得いく答弁はない。集約化が子ども達、地域の未来のためになるのか。もっと市民子ども達の意見を聞くことが必要。一度立ち止まって議論をしなければならない。

質疑が行われ、立崎委員、永本委員、沢谷委員からは「小規模校の２人体制の調理場がこのままでは立ちいかなくなる懸念はどうするのか」、近藤委員からは「危機感はあるのか」と質問がありました。

川原田委員は、「調理員の待遇強化、体制強化、働く環境の整備を行うことが問題の解決につながる」と答弁しました。

その後、14人の委員により、採決が行われ、賛成８人、反対６人で採択されました。

本会議　反対討論なし

本会議が22日に行われ、予算等審査特別委員会で可決された修正案が報告されました。

修正案に対しての賛成討論

金兵議員は賛成議員を代表して「議論を重ねてきたが、今、集約化・民間委託をすることに理解できない。子ども達のために立ち止まって議論をして、良い体制を構築していく必要がある。コロナ対策、市民への説明周知と協働のまちづくりの付帯意見を付して賛成します」と賛成討論を行いました。

起立採決は行われず

予定していた反対討論は取り下げられ、反対者がいるにも関わらず、起立採決はされず、市民にわかりづらい採決となりました。

これまでの経過

2013 年 4 月～	南小、網小、東小などで親子給食開始 2012 年に 3 億 8 千万をかけて改修工事	
2019 年 11 月	市役所労働組合と協議	
2020 年 12 月～ 2 月	教職員、PTA、保護者等へ説明	25 回 237 人
2 月 5 日	議会（文教民生委員会）に説明	
2 月 8 日（道新）	新年度予算計上を断念	
3 月議会	**・民間委託中止と安全安心な給食の維持**を求める請願 **（2278 名の署名）** **・給食提供体制の維持とアレルギー対応**を求める請願 **・民間委託中止と現行給食の維持**を求める請願 **・給食の未来をともに考える**を求める請願 上記請願の審査	
9 月議会決算審査	給食調理員は確保できている	
12 月議会	**・集約及び調理業務の民間委託をしない**を求める請願 **・学校給食の今後に対して民意を取り入れる**請願 **・集約化に対し段階を踏むことを求める**請願 **・給食の品質向上を求める**請願 上記請願の審査	
12 月末	**日本共産党市民アンケート全戸配布**	
11 月～ 2 月	PTA、保護者、調理員等に説明	35 回 133 人
2021 年 2 月 12 日	第 1 回学校給食を考える懇話会開催	
2 月 11 日	**広告「学校給食について考えてみませんか」全戸配布**	
2 月 15 日	集約化の予算を計上した予算説明	

「国会かけある記」

政権交代で原発ゼロへ

2021年3月22日

参議院議員　岩渕　友

2月の福島県沖地震に続く20日の宮城県沖地震。相次ぐ地震に不安が募ります。いずれも東日本大震災の余震とのこと。大震災は終わっていません。

大震災と東京電力福島第一原発事故から10年を前後して、座談会や手記、インターネット番組への出演、予算委員会での質問などが相次ぎ、10年間を何度も行ったり来たりしました。強く思うのは原発はいらないということです。

予算委員会で取り上げた原発事故による「ふるさと喪失」という損害。「ふるさと」は場所というだけでなく、生活を営む場であり、地域のコミュニティやお祭りといった文化など、代々受け継いできたものを含んでいます。

家を再建させても、事故前の景色や地域でのつきあいを取り戻すことはできません。それを奪ったのが原発事故なのです。こうした損害への慰謝料が、原発事故をめぐる訴訟で認められるようになってきました。ところが、国も東京電力も認めていません。

東京電力が、新潟県の柏崎刈羽原発への不正侵入防止の機能喪失に代替措置を取っていなかったという重大問題が明らかになりました。この事態をうけて、衆議院では集中審議が行われ、参議院予算委員会でも質疑が相次ぎました。東京電力に原子力事業者としての資格など到底ありません。水戸地裁が東海第二原発の運転を差し止める判決を出しました。判決に照らせば、全国の原発が再稼働できる状況にありません。政権交代で原発ゼロへ、力を合わせましょう。

議会だより

3月議会が22日に閉会しました。この日の本会議は、新年度予算案について一部修正した予算案を予算等審査特別委員会として大方の賛成で成立したと報告されました。

採決の結果、なぜか修正案に反対した議員も賛成したため全員の賛成で可決しました。修正案が提出されたのも近年では初めてのこともあり、議員も事務局も戸惑いながら議事が止まったりして進められました。そこで感じたことは、議事は見ている市民にもわかるような進め方でなければならないということです。今回の修正された予算案について、採決で賛否を起立していたものをしなかったため、議員の中には反対だったという人もいたので、その議員の意見は結果として意思表明ができなかったのです。

今回の経験で議会のルール上の課題も見つかりましたので、よりスムーズに議会運営ができるように改善しなければならないことも分かりました。議会が議会らしくなるために頑張ります。

村ちゃんが駆ける

予算等審査特別委員会の議論を経て、数字上は委託の方が安くなる資料が出されましたが、人件費だけが3000万円も下がっていました。経費は660万、消費税が730万もかかります。一度委託してしまうと、委託会社との協議で経費が上がる可能性もあります。

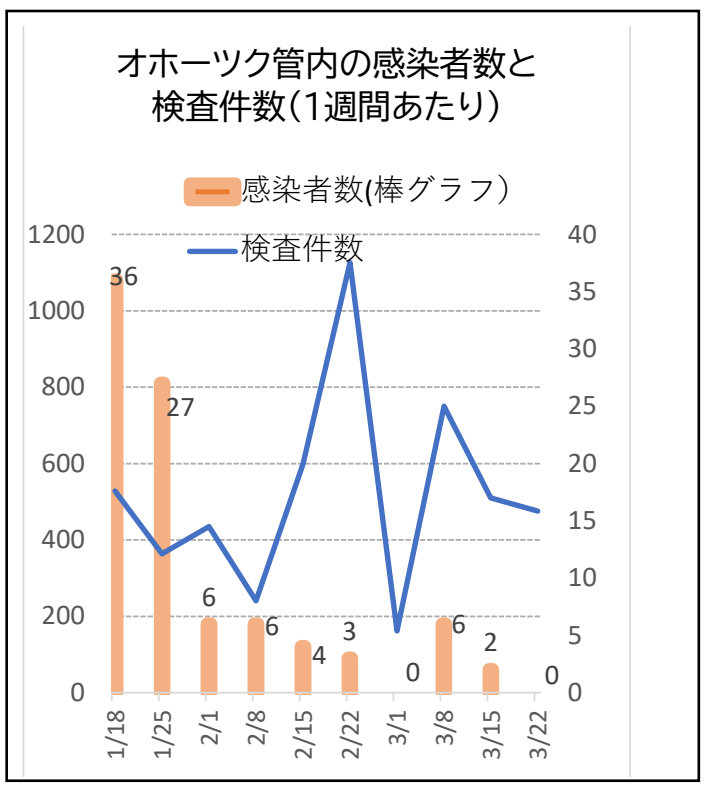
集約化によって調理時間は今より40分ほど早く完成させなくてはいけず、調理員への負担が更に増えることになります。手間のかかる食材は調理が間に合うのかと質問すると、栄養士が計算しているので間に合うと言います。

調理員の意見を聞く場はあるのかと質問すると、年に1回は聞き取りする。栄養士が逐次聞き取りしている。と言います。

野菜切り機を導入しているかと質問すると、小規模調理場には導入していない。検討すると言います。今回の集約化と委託の計画の前に改善すべきことは、たくさんあるのだと判りました。今回、修正案が可決して本当に良かったです。お母さんたちのお陰です。

私達議員がもっと、学校給食の現状を調べて、教育委員会に改善を求めていかなくてはならないのだと強く思いました。

流氷

共同購入した不知火（デコポン）が、2月下旬に届きました。春を知らせる水仙とネコヤナギとミカン山便りが入っていました。便りには「昨年7月4日、多くの人命を奪った集中豪雨に見舞われ、恐怖を覚える雨音は止むことはなく、24時間に500㎜という観測史上初の記録。水が引いた後、大量の土砂と猛暑とコロナ禍の三重苦。▼熊本には、先人達が残してくれた言葉があります。「のさり」苦しみ抜いた末に、その経験を天からの授かり物ととらえた方言です。コロナ禍の中で、分断ではなく自分のことのように苦しむ「もだえ」の精神です。私達を支えてくれたふたつの宝物でした。このままでは、ミカン作りができなくなる日が来るのでは・・・？と思っていたら、祈りの中でミカン山の斜面がいつものように黄色く染まっていたのです。▼「地球温暖化」の影響をもう否定することはできないでしょう。地球のあちこちで気候変動は続いています。それでも私達は、どこかで人間の英知で健全な地球に誰かが修正してくれるだろうと思ってきたかもしれません。」と、書かれていました。▼ひとりひとりができる地球温暖化対策、災害に遭われた方々にお見舞い申し上げ、来年も美味しい不知火ができますよう祈っております。

すみっこ